

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】

都道府県名	愛 知 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	三好町立緑丘小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	4	4	4	4	1	26	36
児童数	180	156	141	126	127	130	2	862	

研究の概要

1 研究主題

<p>生きる力を高めるみどりっ子 - 基礎・基本を定着させる学習指導 -</p>

2 研究内容与方法

(1)実施学年・教科

<p>1～6年算数(子どもの習熟度に差が生じやすい教科であるため) 3・5年国語(すべての教科を学ぶ基礎となる教科であり、理解度に差が出やすい教科、学年であるため) 6年理科・体育・音楽・家庭科(教科担任制・専門性の高い教科であるため)</p>
--

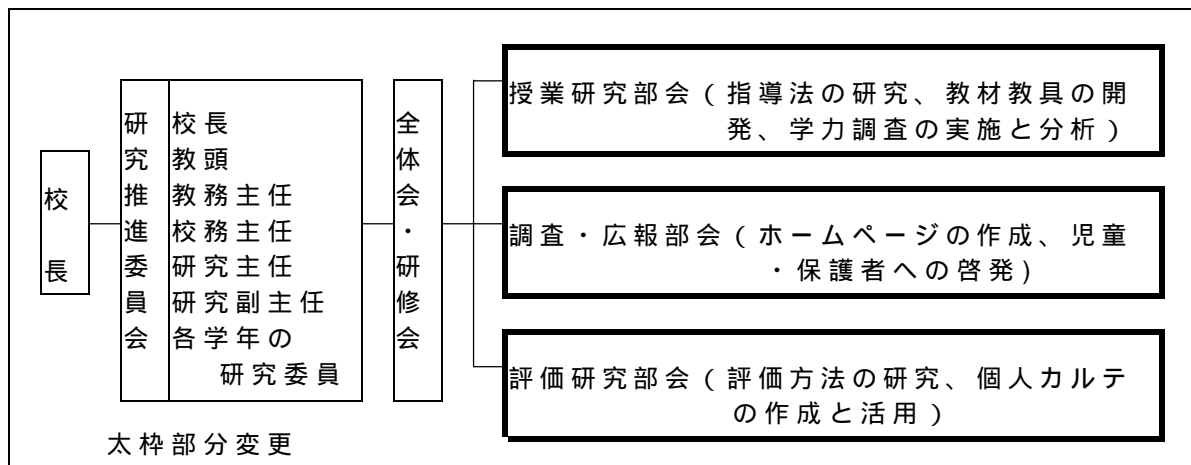
(2)年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 算数における効果的な少人数指導のあり方について 研究の見通し(仮説) 算数において、少人数を中心とした個に応じた指導・援助、学習集団のあり方を工夫することにより、基礎・基本的な力が育つであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 指導体制の工夫 一つの学級の授業を、担任とTT担当の2人で指導するチーム・ティーチング(TT)や、2学級を3分割し3人の教師でそれぞれのグループを指導する少人数指導(SS)、教科担任制(一人の教科専門教師が学年全クラスの特定教科を指導する)による指導を実施し、指導体制の工夫を図る。</p> <p>(2) 指導方法や教材・教具の工夫 TT二進型・別進型を取り合わせた授業や習熟度別のグループを編成した授業を実施する。補充教材や発展的な教材の工夫開発を行う。</p> <p>(3) 計算力の定着 毎日10分の「計算タイム」の時間を設定し、計算問題の習熟を図る。</p> <p>(4) 指導力を高める 積極的に授業を公開して意見の交換をしたり、講師を招いて指導を受けたりして指導力の向上に努める。</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 児童の理解と個に応じた学力の把握について 国語における効果的な少人数指導のあり方について</p> <p>研究の見通し（仮説） 児童の理解と学力の把握（学力診断カルテ・児童の自己評価などを利用）を進めることにより、個に応じたきめ細かな指導が可能となり、確かな学力を身につけることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 児童の理解と学力の把握 算数の「数と計算」領域にしぼり、個人の学力診断票（個人カルテ）を作成し、達成度の状況を継続的にチェックし、子どもの達成度に合わせたきめ細かな指導を行う。学力診断票は、次学年にもち上がることであり、学年をまたいだ継続的な指導ができるようにする。</p> <p>(2) 指導方法の工夫 算数の研究実践を継続し、国語の少人数指導の効果的なあり方を研究する。習熟度別のグループの編成や課題別、興味・関心別のグループ編成による指導方法の工夫・改善を図る。</p> <p>(3) 学習指導のパターンの編成 国語や算数の少人数指導の効果的な学習指導のパターンを編成し、効率的な指導法を通して基礎学力の定着を図る。</p> <p>(4) 学習の成果の累積 計算練習のプリントや発展問題のプリントを個人のファイルにとじ込み、復習や評価に生かすようにする。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 基礎・基本を定着させる学習指導のまとめと普遍化</p> <p>研究の見通し（仮説） 基本的な教科（国語・算数）において、少人数指導を中心とした個に応じたきめ細かな指導方法の工夫・改善や児童の意欲を高める評価のあり方を工夫することにより、達成感や学ぶ意欲を味わうことができ、基礎学力が定着するであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 意欲を高める評価の工夫 児童の自己評価の活用方法や単元ごとの評価の仕方を工夫し、学ぶ意欲を高める。</p> <p>(2) 学習指導のパターンの確立と普及 誰が指導しても効果的な少人数指導が行える主となる学習指導のパターンを確立し「分かりやすい授業」に努める。また、積極的に授業を公開し、指導方法の普及を図る。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

- (1) 学力を向上させるには、学習意欲を高めることが何より大切である。7月のアンケートでは、少人数やTT指導について、子どもたちの66%が「よい」と答えた。この数字は、昨年調査と比べて7%上昇している。「よい」と思う理由は、「やる気が出る」「先生がノートやプリントをよく見てくれる」などが多かった。少人数やTTによる指導が、きめの細かい学習を可能にし、子どもたちの学習意欲を高めたことがわかる。
- (2) 子どもたちの算数・国語における基礎学力が確実についてきている。
- 【1年生の例】6月に学習した「たしざん(1)」の単元テストで満点が36人中18人だったのに対し、10月に学習した「たしざん(2)」では、満点が29名いた。TT指導によって、個に応じた指導を続けている成果である。
- 【3年生の例】毎月の計算テストの合格者(90点以上)が、5月に36人中30名だったが、12月には34名になった。算数については、昨年度から継続的に計算練習に取り組んでいるため、常に合格者が多く、算数の得意な子どもを増やしている。また、算数の苦手な子どもたちの力を向上させている。
- 毎月の漢字テストの合格者が4月には36名中17名だったのに対し、11月には33名になった。今年度から、少人数学習を始めたり、継続的に漢字練習に取り組んだりしている成果である。

2 今後の課題

- (1) 少人数やTT指導を円滑に、そして効果的に行うための打ち合わせ時間の確保が十分とはいえない。
- (2) 少人数指導で2学級3展開の授業を進めるため、担任でありながらクラスの子どもの様子が十分に把握できない。
- (3) 今年度、国語の少人数指導にも力を入れて取り組んだが、習熟度別のコース分けが難しく、今後もより効果的なコース分けや学習方法について追究していきたい。

学力等把握のための学校としての取組

- (1) 標準学力検査の実施(年1回年度末)
- (2) 国立教育政策研究所の平成13年度実施の学力調査問題と同じ問題を実施し、比較する。(年1回年度末)
- (3) 単元テスト記録の累積(随時)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 授業公開
- | | |
|----------------|---------------------------------------|
| 平成15年 6月23日(月) | 2年算数のTT指導(算数における効果的なTT指導のあり方について) |
| 平成15年 9月30日(火) | 3・5年国語の少人数指導(国語における効果的な少人数指導のあり方について) |
| 平成15年11月17日(月) | 1年算数のTT指導(教具の活用とTT指導の工夫について) |
- (2) ホームページによる研究状況や公開授業予定の発信
(<http://www.hm.aitai.ne.jp/~midori>)
研究や実践の進行状況により、内容を順次更新していく。
- (3) フロンティアだよりの発行(不定期)
研究内容を保護者に知らせる。

(4) 研究紀要の発行 (年 1 回年度末に発行)

研究の概要、各学年の実践記録、研究の成果と課題を冊子にまとめた研究紀要を発行し、推進地区内の全小中学校、各教育委員会に配布する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無